

放置厳禁！ 歯ぐき下がりによる知覚過敏



こんにちは。
気づけばもう12月。
年末年始の準備に向けて、
世間の様子も慌ただしく見えますね。

寒さが身にしみる季節ですが、
このように賑わう様子を見ることが出来るのは
嬉しい限り！

一時はコロナで冷え込んだ活気も取り戻されて
温かみが心に染み入るような気さえしてきます。

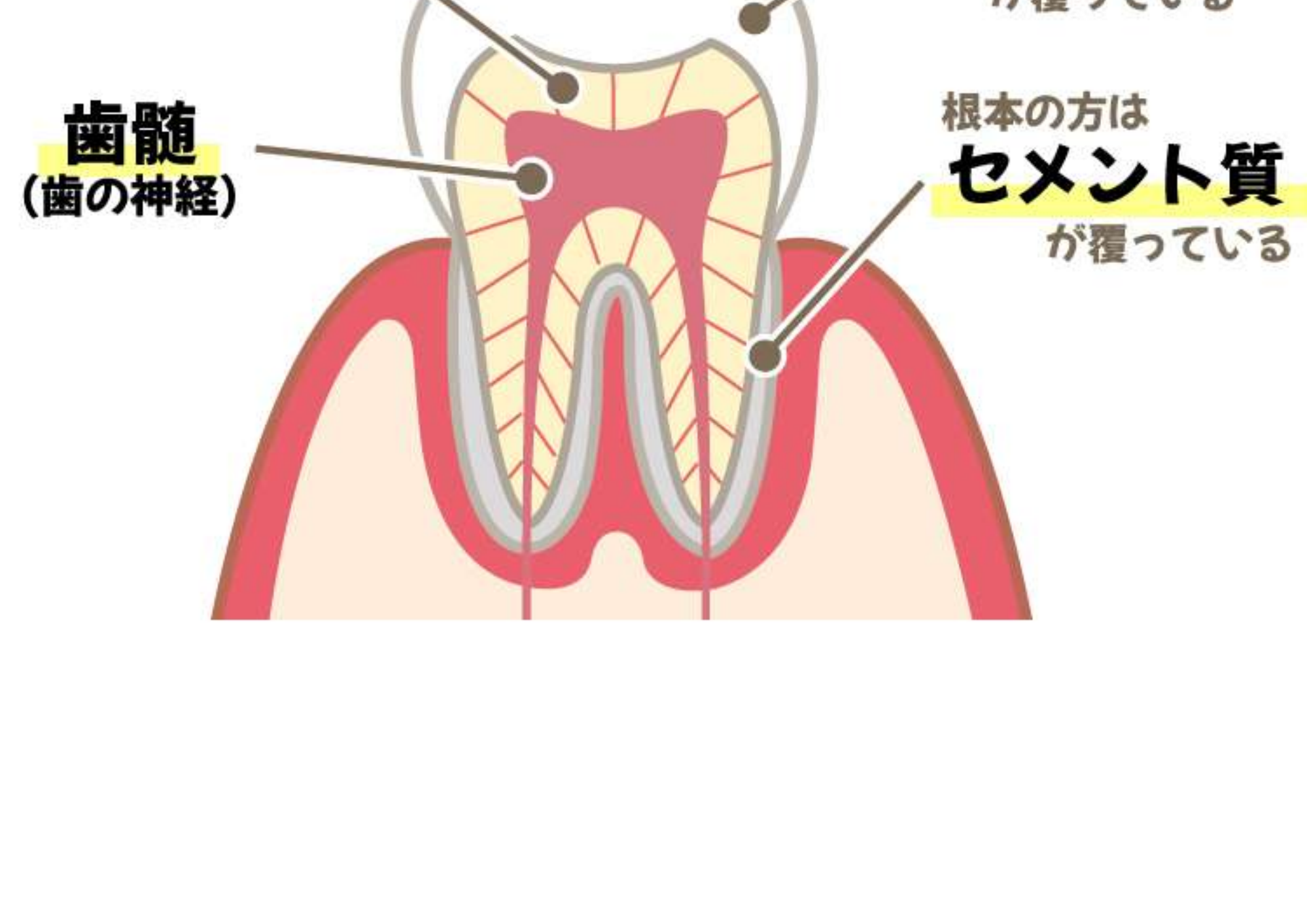
ところで、
歯科にとっての「しみる」は、
患者さまの悲痛な訴えのひとつ。

原因はいくつか考えられますが、
今回はその中のひとつ、
『知覚過敏』について
ご紹介させていただきたいと思います。

◆「しみる歯」と「しみない歯」の違い

そもそも「歯がしみる！」と感じるのは、
歯の神経に刺激が加わるため。

本来であれば、
歯の神経は『象牙質』に覆われており、
その上に『エナメル質』や『セメント質』、
『歯ぐき』などが重なって守られています。



しかし、
何らかの原因で象牙質が露出してしまうと、
象牙質に空いている無数の穴から
神経に刺激が伝わるようになります。



この刺激こそが、知覚過敏の正体なのです。

◆象牙質が露出してしまう原因とは？

では、なぜ本来は守られているはずの
象牙質が露出してしまうのでしょうか。

その原因のひとつが
歯ぐき下がり（歯肉退縮）。

歯ぐき下がり、
皆さんもご存じの『歯周病』や、
ついやってしまいがちな
『間違った歯みがき（ブラッシング）』をはじめ、
『かみ合わせ』や『加齢』といった理由から発生します。

そして、歯ぐきが下がると
『セメント質』が露出します。

このセメント質は、
エナメル質に比べて非常に弱く、
ブラッシング程度の刺激で
あっという間に削れてしまいます。



セメント質が削れると、
当然その下の象牙質が露出するため、
そこに生じた刺激が知覚過敏となってしみる…
というわけなのです。

◆「しみる」と思ったら歯科へご相談

知覚過敏の原因は今回ご紹介した
ブラッシングや歯周病以外にも考えられますし、
そもそも「知覚過敏以外の原因でしみていた」
ということも十分考えられます。

このようなお口の痛みや違和感を放置すると、
さらなるトラブルへ繋がる恐れがありますので、
根本的な原因を把握し
対処することが大切です。

しかし、いずれも
皆さまご自身で判断することは非常に困難。

少しでも「しみる」と感じたら、
いつでも私たちにご相談ください。

